

# 穂肥のあとは、間断かん水！根の活力維持を！ 畦畔、法面、農道の草刈りを徹底！

山形おいしさ極める！米づくりプロジェクト本部

## ◎ 生育概況

7月8日現在の平坦部「はえぬき」の生育は、平年と比較して、草丈はやや長く、茎数はやや多く、葉数及び葉色は並みとなっています。

農業総合研究センターの幼穂調査によると、出穂期は全般的にやや早い～早い予想です。

平坦部「はえぬき」の生育（7月8日）

項目	調査値	平年値	平年比・差	
草丈	58.0 cm	55.8 cm	104	やや長い
茎数	686 本/m <sup>2</sup>	659 本/m <sup>2</sup>	104	やや多い
葉数	10.3 枚	10.3 枚	0	並み
葉色 (SPAD)	43.0	42.5	0.5	並み

※各農業技術普及課の調査結果を平均した値

予想出穂期（7月8日現在、農業総合研究センター調べ）

品種名	場所	予想出穂期	平年出穂期	平年差
はえぬき	山形市みのりが丘	7月31日	8月1日	-1日
	鶴岡市藤島	7月30日	8月1日	-2日
つや姫	山形市みのりが丘	8月6日	8月7日	-1日
	鶴岡市藤島	8月6日	8月9日	-3日
雪若丸	山形市みのりが丘	7月31日	8月2日*	-2日
	鶴岡市藤島	7月31日	8月2日	-2日

※過去6か年（H27～R2）の平均値

## ◎当面の技術対策

7月8日発表の1か月予報（7月10日～8月9日）では、平年に比べ気温は高く、降水量、日照時間はほぼ並みの見込みとなっています。

品質が高く、良食味の米を生産するために、気象の変化に十分注意しながら、きめ細かな栽培管理を行いましょう。

### （1）水管理の徹底 ～根の活力維持と低温対策～

穂肥施用後は、飽水管理（土壌表面の足跡に水が残る程度）を行います。その後は間断かん水に移行し、土壌を酸化状態に保ちながら、根の活力を維持します。なお、今後とも用水の効率的な利用に努めましょう。

冷害に遭遇しやすい中山間・山間地域では、前歴深水管理（幼穂形成期の深水）を積極的に実施しましょう。出穂25日前頃からは10cm程度の深水にし、低温に最も敏感な穂孕期（出穂14日前から7日前頃）に気温17℃以下が予想される場合には、15cm以上の深水管理を行い、不稔粃の発生を軽減します。山間部等で水温が18℃以下と低い場合は被害を助長するので、水温の上昇を図る対策を行いましょう。

## (2) 斑点米カメムシ類対策 ～草刈りを徹底！ 畦畔、法面、農道の雑草を確認！～

斑点米カメムシ類の発生が多くなっています。現在、畦畔、法面、農道、休耕田等で雑草が繁茂しているところでは、地域全体で出穂2週間前頃までに草刈り等の除草対策を徹底し、今後の斑点米カメムシ類の増殖を抑制しましょう。また、水田内のノビエやホタルイ等は主要な斑点米カメムシ類の一つの「アカスジカスミカメ」の産卵場所となり、発生源になるので、本田の残草対策も万全に行います。

## (3) 葉いもち対策 ～早期発見・早期防除～

いもち病の感染に好適な気象条件が続いています。ほ場をよく見回り、早期発見、早期防除を徹底します。

## (4) 直播栽培 ～生育量に応じた穂肥～

直播栽培の「はえぬき」の穂肥は、出穂25日前（幼穂形成期）に窒素成分で1.5～2.0kg/10aが基本です。10葉期に㎡当たり茎数が700～750本で葉色が40以上の場合は、施用量を1.0kg/10a以下に減肥します。



## つや姫

## 食味最優先の管理のポイント

7月8日現在の生育は、平年と比較して、草丈は長く、茎数、葉数は並み、葉色はやや淡くなっています。なお、出穂期はやや早まる予想で、既に穂肥の散布時期に入っています。

直ちに生育診断を行い、品質・食味を優先し、窒素成分で1.0～1.5kg/10aを行います。なお、葉色が濃い場合は穂肥を控えます。

「つや姫」の生育（7月8日）

項目	調査値	平年値	平年比・差	
草丈	58.1 cm	54.7 cm	106	長い
茎数	560 本/㎡	547 本/㎡	102	並み
葉数	10.3 枚	10.2 枚	0.1	並み
葉色 (SPAD)	39.3	41.0	-1.7	やや淡い

※各農業技術普及課の調査結果を平均した値

**農作業事故と熱中症に十分注意してください！**

休憩をこまめにとり、水分補給を行いながら、無理のない作業を！

**農薬はラベルをよく読んで使用しましょう！**

農薬危害防止運動実施中